

パソコン環境について

予測モデル Ver.7.1 は、Microsoft（マイクロソフト）社の Windows2000/Xp 上で稼働するシミュレーションモデルとして開発されています。したがって、上記の OS が作動する機種であれば、基本的にどのメーカーのパソコンでも使用することができます。ただし、他のアプリケーションの設定状況などにより、追加的に環境設定を行う必要がある場合があります。

また、気象データの転送ではネットワーク環境の設定が必要となりますが、LAN 等の設定によっては気象データ転送プログラムでの気象データ転送ができない場合があります。

予測モデルを運用するには、ある程度以上の主メモリ容量と CPU 性能が必要です。次の表の仕様を満たす機器（ハードウェア）でのご利用をお勧めします。

表 予測モデル Ver.7.1 の使用に際して推奨する仕様

項目	推奨する仕様
CPU	Pentium 3 プロセッサ以上（300MHz 以上を推奨）
主メモリ	64MB 以上（128MB 以上を推奨） （ただし、他のソフトを同時に利用する場合は、そのソフト分も必要） OS により 32MB 程度でも稼働しますが、計算実行時や画面描画時にスワップ処理が行われ大幅に処理時間がかかってしまう可能性があります。また、海域によっては計算不可能な海域も発生します。 64MB 未満のメモリの場合は、CPU 性能よりも主メモリ量を増やした方が処理速度は向上します。
ハードディスク	単独の HDD に 120MB 以上の空きが必要 結果ファイルを除く全ての必要ディスク容量は日本全国版の場合で 80MB 程度。 1 ケースの計算結果ファイルを出力すると約 6MB 程度必要となり、数ケースの結果を保存しておく場合、50MB 以上は空き容量が必要となります。
ディスプレイ	1024×768 ドット、256 色以上。 True Color（24 ビット、32 ビット）でも使用できます。
その他	MS-Windows2000/Xp 上で稼働 Ver.7.1 は Windows95/98/Me（Millennium Edition）でも稼働しますが、動作確認対象から除外させていただきます。
その他 必要ソフト	MS-ACCESS2000 以上がインストールされていること ● 脆弱情報データベース利用のため必要です。